

# 指導資料

## 社会 第107号



鹿児島県総合教育センター

- 小学校，特別支援学校対象 -  
平成19年5月発行

### 基礎・基本の定着を図る小学校社会科学習指導の充実

- 平成18年度「基礎・基本」定着度調査の結果を踏まえた指導法の工夫 -

鹿児島県教育委員会では平成16，17年度に引き続き，平成18年度「基礎・基本」定着度調査（以下「今回」という。）を実施した。

この調査は，学習指導要領が示す基礎的・基本的な内容のうち，「読み・書き・算」等の基礎学力について県全体の実態を把握するとともに，各学校の課題を明確にし，きめ細かな指導法の改善に資するなど，基礎・基本の確実な定着を目的としたものである。

今回も，平成17年度「基礎・基本」定着度調査（以下「前回」という。）と同様に，小学校第5学年で国語，社会，算数，理科，中学校第1学年及び第2学年で国語，社会，数学，理科，英語について，各学年すべての児童生徒を対象に実施した。

そこで，本稿では今回の社会科の結果について前回，前々回の結果と比較しながら分析・考察するとともに，基礎・基本の確実な定着を目指す社会科学習指導法の工夫改善について述べる。

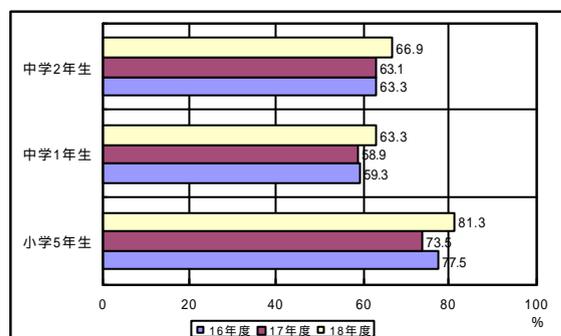
#### 1 定着度調査の結果と考察

##### (1) 社会科の平均通過率について

今回の小学校第5学年の平均通過率は前回より7.8ポイント高い結果であり，

各学校の取組の成果から，おおむね，基礎・基本は定着していると考えられる。

校種別で見ると，前回より小・中学校とも平均通過率は上がり，取組の成果が見られるが，前回と比較して，小学校と中学校との通過率の差が広がっている。特に，小学校第5学年と，中学校第1学年の平均通過率の差は，前回は14.6ポイント，今回は18ポイントと広がっている。



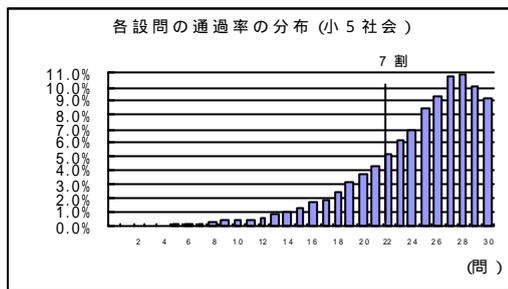
校種別の平均通過率

中学校になると学習内容が一段と難しくなり，小学校より基礎・基本の定着が困難になる。そこで小学校段階では，中学校への接続を考えた指導が大切となる。

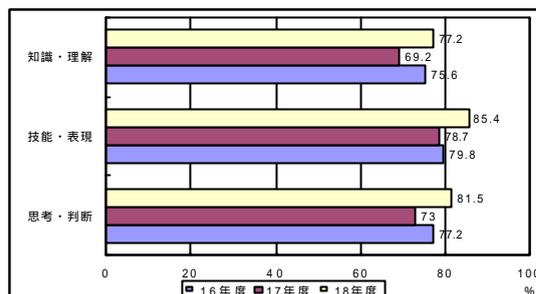
##### (2) 各受検者の正答数の分布について

今回の調査における，各受検者の正答数の分布を見てみると，正答数の割合のピークが7割ラインの右側にあり，基

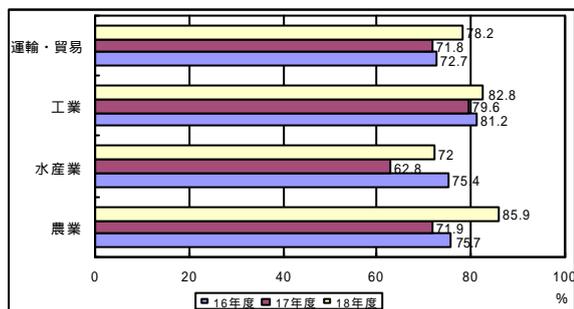
礎・基本の定着状況としてあるべき姿になっている。



傾向であり，知識・理解の定着が難しいことの表われである。



### (3) 内容・領域別の平均通過率について



内容・領域別の平均通過率

「農業」，「水産業」，「工業」，「運輸・貿易」ともに，前回より平均通過率は上がっているが，4領域の中で，「水産業」は，前回と同様に一番低い通過率である。

特に，日本近海を流れる海流の名称を問う問題や，生産額の多い漁港を地図上からとらえさせる問題は，前回と類似した問題が出題されているが，低い結果になっている。

教科書で暖流，寒流の特徴をおさえるとともに，地図帳等を利用して位置関係を把握させたり，白地図で海流や主な漁港を記入させたりするなどの指導の重点化が望まれる。

### (4) 観点別の平均通過率について

今回も，3観点の中で，知識・理解が他の観点に比べると低い結果になっている。これは，調査が始まった当初からの

観点別の平均通過率

学習の終末過程で，基礎的・基本的事項をまとめさせたり，他の事例や関連する学習内容を活用したりする工夫が必要である。

### (5) 平均通過率が低い問題について

問題	出題内容	今回の通過率	前回の通過率
4 (1)	海流の流れが示された資料から，太平洋側を流れる寒流を選択する問題	53.9%	55.8%
7 (4)	石油を運ぶ船を選択する問題	59.8%	32.4%
2 (2)	安全な米作りをするために工夫していることを選択する問題	60.5%	57.6%
4 (2)	生産額の多い漁港を資料から選択する問題	67.3%	73.3%
7 (2)	愛知県にある工業地帯名を地図から選択する問題	69.1%	70.4%

通過率が低かった問題は，前回の類似問題として出題されたものが多い。類似問題の通過率が低いということは，学習内容の理解にかなり抵抗があるということであり，指導法の見直しが必要である。平均通過率の低い問題に共通する傾向として，資料に掲載している地名や社会的事象の基本的な名称を知らないために解答できないことが挙げられる。

地図帳をもとに，都道府県や県庁所在地，代表的な河川，平野，山地，海，海流などの名称をおさえながら，白地図を

利用して繰り返し記入させて指導するなどの工夫が求められている。

## 2 誤答傾向に見る改善の視点

(1) 太平洋を流れる寒流を，4つの選択肢（リマン海流，対馬海流，黒潮，親潮）から選ぶ問題 通過率53.9%

The map illustrates the Kuroshio Current system in the western Pacific. It shows the Kuroshio Current (黒潮) flowing northward along the Japanese coast, the Oyashio Current (親潮) flowing southward, the Tsushima Current (対馬海流) flowing northward from the East China Sea, and the Kuroshio Extension (リマン海流) flowing northeastward. Major cities like Tokyo, Osaka, and Nagasaki are marked, along with various islands and sea areas.

### 【誤答傾向】

- ・ 親潮を黒潮やリマン海流と答えたものが多かった。

### 【改善の視点】

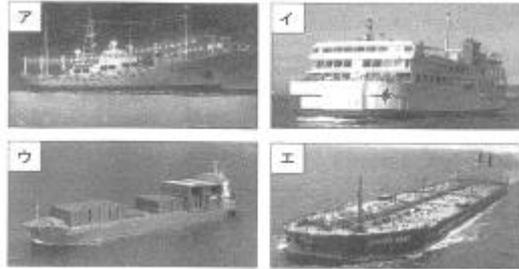
- ・ 太平洋や日本海，暖流である黒潮や対馬海流，寒流である親潮やリマン海流は基本的な用語である。地図上で位置関係をしっかり確認させた上で，白地図に繰り返し記入させたい。この時に，暖流や寒流の発生源を世界地図上で確認させ，温度の違いの原因を理解させたり，生息する魚の種類調べに取り組みせたりすることも大切である。

また，教室に主な漁港や海流を記した地図を掲示したり，地図帳を使って，生産額の多い漁港調べに取り組みせたりすることで，基礎・基本の確実な定着を図

りたい。

- (2) 石油を運ぶ船はどれか。4枚の写真（イカつり漁船，フェリー，貨物船，タンカー，）から選択する問題

通過率59.8%



### 【誤答傾向】

- ・ 自動車工業で学習したコンテナ船を選択したものが多かった。

### 【改善の視点】

- ・ 前回の通過率が32.4%で今回が59.8%であることから，改善の傾向は見られるが，全体的にまだ通過率は低い。

自動車工業で学習したコンテナ船，水産業で学習したイカつり漁船などを取り上げる際に，船の形状や特性まで押さえることが大切である。そうすることで，他の種類の船やその他の特性を見る視点を育てることにもつながる。

- (3) 安全な米作りをするために工夫していることは何かを選択する問題 通過率60.5%

(2) 次の文は，肥料についてのべたものです。次の①，②にあてはまる言葉をそれぞれア〜クの中から一つずつ選び，その記号を□の中に書きましょう。

米づくりには，よい土と栄養になる肥料が必要です。最近では，牛や豚などのふんややうを利用した肥料も使われるようになってきました。この肥料を（①）といいます。これを使うことで，農薬や（②）にあまりたよることもなく，安全な，おいしい米をつくることができます。

ア たい肥	イ 栄養	ウ 消毒	エ 飼料
オ 化学肥料	カ 機械	キ 人	ク 自然

#### 【誤答傾向】

- ・ 消毒，機械を選択したものが多かった。

#### 【改善の視点】

- ・ 安全でおいしい米作りは，農業の大きな課題である。機械化や品種改良，土地改良といった工夫の中でも，特に安全な米作りの視点は大切に扱いたい。

農薬や化学肥料に頼りすぎるとなぜいけないのかを考えさせたり，話し合わせたりする活動や，実際に安全な米作りをしている農家の取組を紹介するなどの工夫も大切である。

### 3 調査結果全体を踏まえた指導法の改善

今回の調査結果を踏まえて社会科学習指導法の改善を次の4点に絞って説明する。

- (1) 基礎・基本となる学習内容の共通理解
- (2) 知識・理解の定着を図る指導過程
- (3) 資料活用能力の育成
- (4) 見通しを持った指導計画作り

#### (1) 基礎・基本となる学習内容の共通理解

「基礎・基本とは学習指導要領の目標・内容の総体である。」という認識で，当該学年の指導要領の内容を熟読し，学習内容を共通理解する必要がある。

#### (2) 知識・理解の定着を図る指導過程

前回と同じように今回も，知識・理解の通過率が他の観点に比べて低くなっている。しかも，今回の調査結果でも明らかのように，基礎的・基本的な社会的事象の定着が低いために，通過率の低い問題が固定化してきている。

そこで，知識・理解の定着を図るため

に，次のように指導過程を工夫，改善したい。

#### ア まとめと連動した学習問題の設定

学習問題の明確化はもちろんだが，学習問題とまとめとが結び付いていなかったり，まとめが位置付けられていなかったりする授業になっていないか検証する必要がある。学習目標の明確化や学習内容の精選，指導と評価の一体化を図る上からも，学習のまとめを明確に立ててから，それに対応した学習問題を設定する工夫も考えられる。

#### イ 書く活動を位置付けた学習のまとめ

学習した内容を確実に定着させるために，書く活動を取り入れたまとめを位置付けたい。

従来，教師が文章としてまとめたものを子どもたちはそのまま学習のまとめとすることが多い。学習の基礎的・基本的事項をキーワードにして，子どもたちに自ら文章等でまとめさせる活動を取り入れたい。

#### ウ 学習成果の確実な見届け

学習内容の確実な定着を図るためにも，教師による見届けは大切である。見届けを適切に行うためには，1単元の指導計画や1単位時間の指導過程に，見届けの場を位置づけることが大切である。

そして，基礎・基本の定着が確実に把握できるように，ワークシートやプリント，ノート等を使って，学習の成果の累積を図りたい。

1単元の指導計画

過程	主な学習活動
つかむ	・学習問題の把握 ・計画立案, 予想
調べる	・問題追究
まとめる	・まとめ・発表 ・基礎・基本の確認
広げる	・補充, 発展学習 ・新たな課題確認

1単位時間

過程	主な学習指導
導入	・学習問題の設定
展開	・山場のある指導 ・具体的な評価
終末	・確かな見届け(基礎・基本の確認)

基礎的・基本的事項を定着させる見届げの場

### (3) 資料活用能力の育成

基礎・基本の定着を図るために、資料を活用する学習を積極的に取り入れたい。

図1のように様々な資料活用能力の中で、特に資料を読み取り、問題解決に役立てる力を育成するためには、読み取りの視点を明確にした段階的な指導が大切になる。

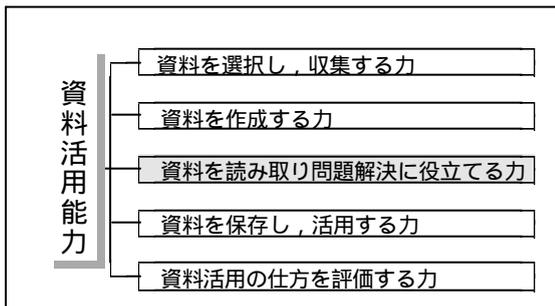
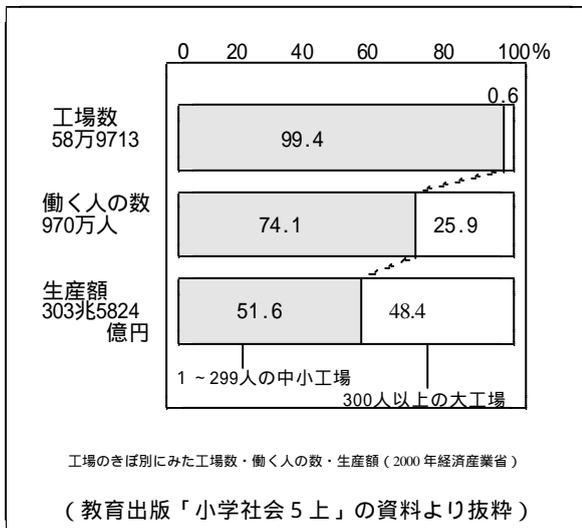


図1 資料活用能力の分類

例えば、次の資料を読み取らせる活動を行うとすると、



「このグラフからどんなことがわかりますか。」と言った発問が多い。一つの資料には、たくさんの情報が含まれている。それを、多面的に読み取る力を育成するためには、次のような段階的な指導が必要になってくる。

**第1次的な読み取り**  
【**標題や数字を正しく読む。**】  
・ は、...だ。 ・ は、...だ。  
(例) ・ 中小工場は、99.4%だ。  
・ 大工場の生産額は、48.4%だ。

↓

**第2次的な読み取り**  
【**比較や関係などに着目して読む。**】  
・ は、 に比べて、...だ。  
・ の方が、 より、...だ。  
(例) ・ 中小工場は、大工場に比べて、工場  
の数はすごく多い。

↓

**第3次的な読み取り**  
【**疑問や問題を感じながら読む。**】  
・ どうして は、...なのだろう。  
・ なぜ、 は、 に比べて...なのか。  
(例) ・ なぜ、中小工場は工場の数が多いの  
に、生産額は少ないのだろう。

段階的な資料の読み取り例

資料を読み取らせるときには、必ず考えを書かせることも肝要である。

### (4) 見通しを持った指導計画作り

他教科と比べて1単元の指導時数が多い社会科では、見通しをもった指導計画作りが指導法改善の大きなポイントとなる。

この単元を通して、子どもたちにどんな力を育てたいのか、どんな変容を目指すのかを明確に位置付けて、次の視点を基に、指導計画作りに臨みたい。

指導計画作成の視点

本単元で育てたい力の明確な位置付け  
興味・関心、疑問のわく資料提示  
指導計画の中心に体験的な活動の位置付け

様々な表現活動への取組  
 基礎的，基本的な事項の定着を図る学習の位置付け  
 新たな問題や疑問を追究する場の確保  
 評価規準の明確化

基本的な指導計画のモデル



下記に，1小単元1サイクルの基本的な指導計画のモデルを示す（図2）。

「基礎・基本とは，学習指導要領の目標・内容の総体である。」という共通認識に立って，今一度学習内容を見直すことが肝要である。なぜ毎年類似問題ができないのか，なぜ同じ内容・領域，観点が低いのかを検討し，指導法を改善していくことが大切である。

（企画課）

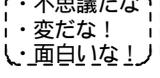
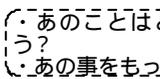
過程	主な学習活動	指導上の留意点
つかむ	1 資料や体験をもとに疑問や問題点を洗い出し，学習問題を作り，予想する。  ・不思議だな ・変だな！ ・面白いな！ ・もっと調べたいな ・どうしてだろう？	驚きや疑問，矛盾などが起こる資料を提示したり，体験させたりする。  KJ法等で，一人一人の追究したいことをあげ，集約する。（フロン・スト・ミング，バスセッションなども） 予想をもとにして，追究することを話し合わせる。 疑問点や分からない点を明確にして，柱としてまとめさせる。
	2 学習問題を解決するための学習計画を立てる。 （追究の柱を立てる。）	多様な学習活動を組み入れて追究させる。
調べる	3 学習計画をもとに，意欲的に追究する。  ・一人でかな，グループでかな ・どんな方法で調べようかな。 ・どこで調べようかな。 ・だれに聞こうかな。	<ul style="list-style-type: none"> <li>見学，インタビュー，手紙，電話</li> <li>図書資料やパソコンの活用</li> <li>模擬体験</li> <li>ゲストティーチャー</li> </ul>
	4 追究活動を通して，分かったことを整理し，自分なりの考えをまとめる。  ・いろんなまとめ方がありそうだな。 ・分かりやすいまとめ方は何かな？ ・大事なことは何かな？	学習形態を工夫してまとめさせる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>個，グループ，全体</li> <li>ポスターセッションなど</li> </ul> 言語・絵画等：話し合い，作文，新聞，年表，紙芝居，絵など 映像，音声等：写真，スライド，ビデオ，パソコン，録音，効果音など 造形，表現等：劇，模倣，こっこ，模型，料理など
まとめる	5 学習問題に対する自分なりの見方や考え方を発表したり，他の発表を聞いたりする。	学習問題に対する予想を検証させ，自分の言葉でまとめさせる。
	6 本単元の学習活動についてまとめをする。  ・いろんなことが分かったぞ。 ・大事なことは，しっかり確認しよう。 ・学習の反省をまとめよう。	本小単元の基礎・基本を確認させる。 （基礎的・基本的事項の定着を図る場）  自己評価や相互評価を取り入れる。
広げる	7 本単元の学習を振り返り，新たな興味・関心を大切に，問題を解決しようとする。  ・あのことはどうしているんだろう？ ・あの事をもっと調べてみたいな。	新たな疑問については，自主的に調べさせ，家庭学習と連動して取り組ませる。

図2 1小単元1サイクルの基本的な社会科学学習指導計画例

